

令和6年度 学校評価 中央小・中学校パワーアッププラン

1 目標・方針

中期的な学校運営の 目標・方針	人とつながり 自らを高め 未来を切りひらく児童の育成 ～自律×挑戦×つながり力～ ・自律する子：自分で考え、行動できる子 自らの学びの振り返りができる子 ・挑戦する子：失敗を恐れず、挑戦する子 最後まであきらめずがんばる子 ・つながれる子：互いの良さを認め合い、関わりの中で学べる子 他者への感謝の心が持てる子
本年度の重点目標	○子どもに寄り添い、決して見捨てない学校 ・「自分大好き、学校大好き、地域大好き」と言える児童の増加 ・不登校の未然防止と学校復帰に向けた取り組み、いじめ解消率 100% ○家庭や地域と連携し、信頼される学校 ・HP やメールによる情報発信と学校運営協議会の活用 ○指導力を高め、協働できる職員室 ・「主体的」「協働的」「組織的」を大切にし、働く喜びを感じられる職員組織 ・ワークライフバランスを大切にする意識改革

2 自己評価（達成状況 A:優れている B:おおむね良好 C:やや改善 D:要改善）

領域	観点	評価項目	達成状況	学校の取組状況と改善の方策
学校運営	開かれた学校づくり	・学校生活や学習状況等について、積極的に情報発信し、教育活動の可視化を図る。 ・コミュニティ・スクールや地域人材の活用等、地域と協力しながら教育活動を行っている。	B	HP やお知らせメール等を活用し、行事や普段の学習の様子などが伝わるように画像やコメントを入れて情報発信し、教職員は9割と高かった。しかし、保護者から7割以下となり昨年度より減少している。保護者はより多くの情報発信を望んでいるため、可能な範囲で、情報発信の頻度を上げていく必要がある。また、毎月の学校へ行こう DAY や参観日に保護者・地域の方が来校できるように開かれた学校づくりを今後も行っていく。 地域人材の活用については、総合的な学習の中心として、地域の方や地域の施設の方にゲストティーチャーとして来ていただき、学ぶ機会を作ってきた。今後も、地域の方と連携しながら教育活動を行ってきたい。
	生徒指導	・「人・物・時間」を大切に、家庭、地域、学校どこでも自分から進んで挨拶できる子どもを育てる。	A	今年度も、一年を通して毎月の月目標を「人・物・時間」から一つを生活目標にして取り組むことで、学校生活をより良くしようとする意識を持つことができた。物や時間については、行事等に合わせて行うのは効果的だった。ただ、日常生活を過ごす中で、児童の意識が薄くなっていたように感じる。人については、友だちの良い所見つけをするなど、相手を大切にする意識は向上した。しかし、名前の呼び方や言葉遣いについては、人権感覚が低いように感じる。引き続き、名前の呼び方等も啓発していきたい。挨拶も昨年に引き続き取り組んだ。児童では83%と高水準だった。そして、保護者からも70%となり、昨年度より11ポイント上がった。児童と大人の意識のずれが、少し解消したと考えられる。しかし、依然としてコミュニケーションが取れない児童もあり、学校・家庭・地域と連携しながら、どこでも挨拶ができる子どもの育成に取り組んでいきたい。

教育課程	学習指導	・自ら考え粘り強く学びに向かう姿に向けて、単元を通じた授業改善に取り組む。 ・児童に応じた家庭学習やスキルタイムを実施し、基礎学力の定着を図る。	C	丹波市学習定着度調査の結果では、全国平均と同程度になる学年もある一方で、多くの学年で課題が残った。結果から個々の学力実態を把握し、個に応じた手だてを工夫する必要がある。 家庭学習やスキルタイムでは、基礎学力の定着に取り組んできたが、課題が残る学年が多く、引き続き基礎的な学習や過学年の内容の学び直しに取り組むなど、各学年の実態に応じた学習を展開できるようにしたい。
課題教育	人権教育	・学校の取り組みや家庭との連携を通して、互いに人権を尊重し合い、自尊感情を育むように努める。	B	「自分にはよいところがある」と感じている児童が昨年度に比べ7%減り、児童が「自信をもって前向きに取り組んでいる」と感じている保護者は8割に満たない。児童の伸びや頑張りを認める個々への言葉掛けをこれまで以上に意識して取り組むと共に、子どもたち同士がお互いの良さや頑張りを認め合える学級風土、学校風土を作り上げ自己肯定感を高めていく。人権意識については今年度も高い評価を維持している。また生活科・人権総合の学習を通して、家庭や地域との連携を図り、教育活動を展開できた。しかし、安易に人を傷つける言葉を使ってしまうなどの様子も見られる。今後も、誰に対しても互いに尊重し合う態度が育つよう、様々な教育活動の中で取り組んでいく。

3 学校関係者評価

・開かれた学校づくりについては、保護者や地域にも学校から要望等を伝えてもらったら動けることもあると思う。今後もどんどん情報発信をしていってほしい。

・挨拶については、保護者と児童の意識の差があるのは家庭の中での挨拶自体も減っているのではないだろうか。保護者も家庭教育の在り方を勉強していかないといけないかもしれない。家族で一緒に取り組む課題を作るなど、そのことをきっかけにコミュニケーションをとる機会を作ってはどうか。

・学習指導については、学校が危機意識を持って取り組んでほしい。授業の中でがんばっている子を認め、低学年期には基礎学力の定着を行い、高学年になったら自律し学ぶ姿を育ててほしい。今一度、子どもにつけるべき力を学校の中で明確にしてほしい。

・複数教科、複数担任制も5年目を迎え、中学年にもそれを広げようという意図はわかるが、高学年と中学年で同じシステムで行うのではなく発達段階に応じた臨機応変な対応が必要である。

4 次年度の改善の方向性

今年度の教育活動については、関係者評価からは一定の評価を得たが、来年度に向けては、本校の課題に対応する方策を練りながら、授業改善等の見直しを図り、教育目標を実現するべく教育活動を展開していく。ホームページや広報などを活用し、学校行事や児童の様子を発信するとともに成果だけでなく課題についても保護者や地域住民に伝えられるようにしていく。

また、挨拶は人とつながる大切なことであり、子どもたちの人権感覚を高めながら、保護者、地域と連携して、さらに人権意識が向上していくように取り組んでいきたい。また、確かな学力の定着に向け、粘り強さや自己調整力を身に付けられるよう、校内研修の充実を目指す。

令和7年3月19日

学校名 丹波市立中央小学校

校長名 黒田 睦美

